

令和4年度第2回米沢警察署協議会の開催

日 時	令和4年10月31日（月）午後3時から午後5時までの間
場 所	米沢警察署 1階講堂
出席者	協議会委員：会長以下10名 警察署員：署長以下13名
テーマ	高齢者の安全安心の確保

委員からの意見等	警察署の回答
<p>高齢者が朝夕の暗い時間帯に散歩される際、できるだけ明るい色の服装をするよう、広報してほしい。</p>	<p>例年、秋から年末にかけて歩行者と車両が衝突する交通事故が多発する傾向にあります。県内の10月から12月までの過去5年間における歩行中の死亡事故を見てみますと、夕方から夜間にかけて多く発生しています。</p> <p>これまでも、高齢者の交通安全教室や高齢者世帯戸別訪問活動等において、夕方夜間の外出時の明るい色の服装と夜光反射材の着用を呼び掛けており、今後も呼び掛けを継続していきます。</p>
<p>ドライバー側はもちろんのこと、高齢の歩行者へも何らかの形で益々の啓発をしていかなければならない。</p>	<p>県内における過去5年間の歩行者事故を見ると、歩行者側にも交通違反がある場合が認められました。</p> <p>歩行者側の違反内容を見てみると、走行車両の直前直後の横断が最も多く、次いで道路への飛び出しとなっています。</p> <p>交通安全教室や街頭啓発活動など、あらゆる機会を通じて歩行者側のルール遵守の重要性についても継続して呼び掛けていきます。</p>
<p>運転免許証を自主的に返納する主な基準を教えてください。</p>	<p>警察で特に基準は設けていませんが、身内の方などで運転に御心配な方がいれば、警察に御相談ください。</p>
<p>高齢者の特殊詐欺被害防止対策として推進している留守番電話設定の現状を教えてください。</p>	<p>留守番電話設定の割合については、令和4年9月末現在、当署管内約3万8千世帯のうち約6割が留守番電話設定を完了しています。</p> <p>しかし、留守番電話設定にしても、設定を解除する方がいるのが実態です。</p> <p>今後も地域警察官等による巡回を通じて、</p>

	留守番電話への設定を働き掛けていきます。
<p>特殊詐欺被害防止対策として、現在、留守番電話の活用や被害防止の広報活動などを推進中であるが、今後の対策を教えてください。</p>	<p>県内における特殊詐欺被害のうち、「架空料金請求詐欺」の手口によるものが約半数を占め、その被害のうち、電子マネーで支払いを要求されたケースが数多くあります。</p> <p>これらの現状から、多数の電子マネーを扱うコンビニエンスストアでの声掛け訓練の実施が、特殊詐欺被害を防止する上での要となります。</p> <p>今後も継続して声掛け訓練を実施し、特殊詐欺被害の防止に努めていきます。</p>
<p>特殊詐欺の実際の被害事例を教えてください。</p>	<p>今年、当署管内で発生した特殊詐欺被害の手口は、最初は自宅の固定電話に市役所職員を名乗る男が、「医療保険料の還付金がある」などと言い、銀行口座や暗証番号を聞き出します。</p> <p>その後、銀行職員を名乗る男が電話で、「還付金を振り込むため新しいキャッシュカードに替える必要がある」などと言って自宅を訪れ、被害者が差し出したキャッシュカードを封筒に入れ、新しいカードが出来るまで保管しておくように言い、封印するための「印鑑」や「のり」を求めます。</p> <p>そして被害者が離れた隙に別のカードにすり替えて盗み、事前に聞いていた暗証番号で現金を引き出すという手口です。</p>
<p>やまがた110ネットワークやSNSでの発信は、若い世代向けであり、高齢者には広報紙の活用などが有効ではないか。</p>	<p>昨年来、「安全・安心い〜もんだ作戦」と称して、「特殊詐欺被害防止」、「SNSに起因する犯罪被害防止」等と呼び掛ける「のぼり旗」、「ポスター」「チラシ」等を作成し、管内の行政機関、金融機関、学校等に掲示しています。</p> <p>また、SNSに起因する犯罪被害防止に関しては、米沢市立第五中学校を指定校として、少年非行・被害防止プロジェクト事業を展開し、広報用動画を作成、県警公式YouTubeにて公開しています。</p> <p>中学生ボランティア団体、防犯・交通米沢少年隊が、青パト等で使用できるパトメロを作成、青パト団体に音源を提供し、自主防犯活動に活用しています。</p> <p>視覚に訴えるのぼり旗、ポスター、チラシ、動画のみならず、聴覚にも訴える音源の作成等、様々な形で広報を展開しています。</p>

<p>米沢市内において、町内単位あるいは地区単位で防災や避難等の対策を整えている例などあれば、教えてほしい。</p>	<p>県内の各自治体では、災害対策基本法に基づき、「地域防災計画」を策定しています。</p> <p>その中で地区の実情に応じ、「自主防災組織」を結成するよう働き掛けが行われています。</p> <p>自主防災組織は、地域住民が自主的に防災・減災活動を行う組織で、米沢市においては、200を超える組織が結成されています。</p> <p>自主防災組織が取り組んでいる例として、「自宅から地区の指定避難所まで徒歩で移動し、避難ルートの確認や時間を計測する避難訓練」などがあります。</p> <p>また、川西町では「自主防災組織の役員に対し、即応性の高いトランシーバーを1台ずつ配備し、緊急時の通信手段に活用」したり、「過去の被害状況を反映させた地区のハザードマップの作成」などに取り組んでいる地区もあるようです。</p>
<p>各地区の河川で増水すると危険な箇所があるので、雨量計のデータによる判断だけでなく、今後は関係各所による実際の状況を把握した上で判断をしてほしい。</p>	<p>警察では、自然災害による被害が発生するおそれがある段階から、署員による河川や道路等の現場確認、自治体へ連絡要員を派遣し、情報共有・情報交換をすることで、逐一、現状を正確に把握することに努めています。</p> <p>ただ、豪雨により、刻一刻と状況が変化する場合、タイムリーに全ての現象を把握し切れないことがあります。</p> <p>今後も、自治体や各団体等と連携を図りながら、状況を速やかに把握し、住民への情報発信と避難措置を講じていきます。</p>
<p>8月の豪雨災害で実施した主な救助活動を教えてほしい。</p>	<p>8月の大雨では、同3日と4日の2日間、救命ボート部隊が出動し、川西町内で一般住宅に孤立した町民(2世帯5名)を救助した後、無事に避難所まで送り届けることができました。</p> <p>今後も、継続した訓練等を積み重ね、対処能力の向上に努めていきます。</p>
<p>高齢者の積雪対策はどのように行っていくのか。</p>	<p>近年、大雪による積雪、特に高齢者による雪害事故対策は、喫緊の課題と認識しています。</p> <p>積雪対策として、署員による御家庭への巡回の実施、防災出前講座の開催、やまがた110ネットワークによる情報発信のほか、各コミセンを通じた広報啓発活動を推進しています。</p> <p>一人暮らしの高齢者世帯において対策が必要な場合は、自治体等の関係機関等と情報を共有し、連携して対応していきます。</p>

各町内会等が警察と連携を図るための窓口を教えてください。

警察署における業務の窓口は、警務課となりますが、町内会で警察業務に関する届出や相談は、それぞれの地域を担当する交番や駐在所で構いません。交番等に対応できないものは、それぞれの主管課に連絡することになります。